

平成15年度 図画工作科研究構想図

図画工作科における子どもの実態

(自主性)

・つくることやかくことに興味を持ち、楽しく表現活動をする子が多い

(創造性)

・見たことや感じたことなどをもとに発想をすることができるが、それを形に表したり、組み合わせや用途を考えて構想を立てたりする力が充分ではない。いろいろな材料や道具を使って、表現を工夫しようとする姿勢はあるが、材料や道具、色や形の組み合わせを生かして納得できるまでつくり続ける力が充分ではない

(社会性)

・自分や仲間の作品を大切にしようとする気持ちがある。

学校の教育目標

心ゆたかに たくましく生きる子
よく考える頭 (創造性)
進んで働く手足 (自主性)
人もものも大切にできる心 (社会性)

図画工作科において願う子どもの姿

(自主性)

・形、色、材料などに興味を持って集中して作品づくりができる子。

(創造性)

・形、色、材料などに興味を持って、自分の表し方で作品づくりを楽しむことができる子
・想像したことを形に表したり、色や形の組み合わせや用途を考えて構想を立てたりできる子。
・正しく道具を使い、材料、色、形の組み合わせや生かし方を考え、表現を工夫して納得のいくまで作品をつくり続けられる子。

(社会性)

・表現の仕方をアドバイスしたり仲間のいいところを自分の作品に取り入れたりできる子。
・自分や仲間の作品を大切に、よさや美しさを見つけられる子。

研究主題

感動ある授業を求めて

～個に応じたきめ細かな指導で、学ぶ意欲、

学び方、学び合いを育てることを通して～

図画工作科で目指す授業

一人一人がつくり出す喜びを味わえる授業

具体的な手だて

学びたいという意欲(自主性)を育てるために

一人一人の子どもが「つくってみたい」「かいてみたい」「楽しそうだ」と思えるようにする

【研究内容1】

一人一人の子どもが、目的意識を持ち続けることができる、**評価の在り方**。

- 一人一人の子どもの意欲につながる自己評価を具体化する。
- 一人一人の子どもの特性をつかむ教師の評価を具体化する。

毎時間の評価規準を1観点に絞り込むことで、ねらいを明確にする。
の実態把握をもとに、子どもたちの願いやつまずきの共有化を図ることで、子どもの言葉で課題を生み出す。
題材の導入や毎時間の課題づくりの段階に評価規準を提示することで、子どもにめざす姿や作品をより明確にさせる。
毎時間の授業の終末に、自己評価カードをもとに、自分の作品や取り組みを振り返らせる。また、共通の願いやつまずきの要因を把握し、次々の指導につなぐ。

その子なりの学び方(創造性)を育てるために

一人一人の子どもが「自分の納得のいくものができたぞ」と思えるようにする

【研究内容2】

一人一人の子どもが、自分なりの方法で課題を解決する事ができる、**個に応じた指導・援助の在り方**。

- 一人一人の子どもに特性に応じた指導・援助を具体化する。
- 一人一人の子どもにつまずきに応じた指導・援助を具体化する。

その子なりの表現ができるようにいろいろな技術や方法を紹介したり師範で見せたりする。
つまずいている子を集めグループ・個別指導をする。
子どもの特性やつまずきに対する手だてを位置付けた指導計画を作成する。

仲間との学び合い(社会性)を育てるために

一人一人の子どもが「すごいな」「おもしろいな」「きれいだな」と思えるようにする

【研究内容3】

一人一人の子どもが、自分の見方や考え方、技能を高めることができる、**学習集団の在り方**。

- 一人一人の子どもに目的に応じた小集団づくりを具体化する。
- 一人一人の子どもが見方や考え方、技能が高まる学び合いの方法を具体化する。

自分の願いと課題を交流する場をつくる。
表現方法別・目的別など表現が高まるような集団づくりを形成する。
題材の中間や終末で全体で作品を交流する場をつくり、仲間のよさに気づいたり、つまずきに対してアドバイスしたりできるようにする。

図画工作科の授業において大切にしていること

題材開発の工夫

- ・地域題材の導入
- ・題材のタイトルの工夫

導入の工夫

- ・対象との会話や心に残る場面の工夫
- ・魅力ある参考作品の提示

展開の工夫

学習コーナー(材料コーナー、多様な表現コーナー、道具コーナー、お試しコーナー)の設置
特性やつまずきに対する資料の提示

実物投影機やプロジェクターを活用しての個々の作品を全体の場で鑑賞できる場の設定

